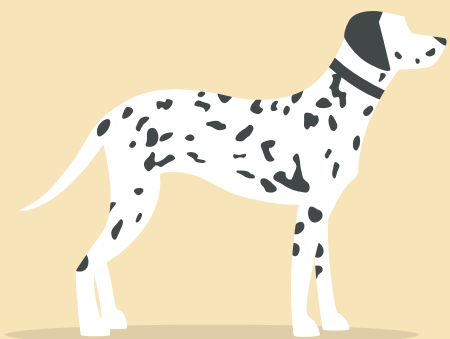


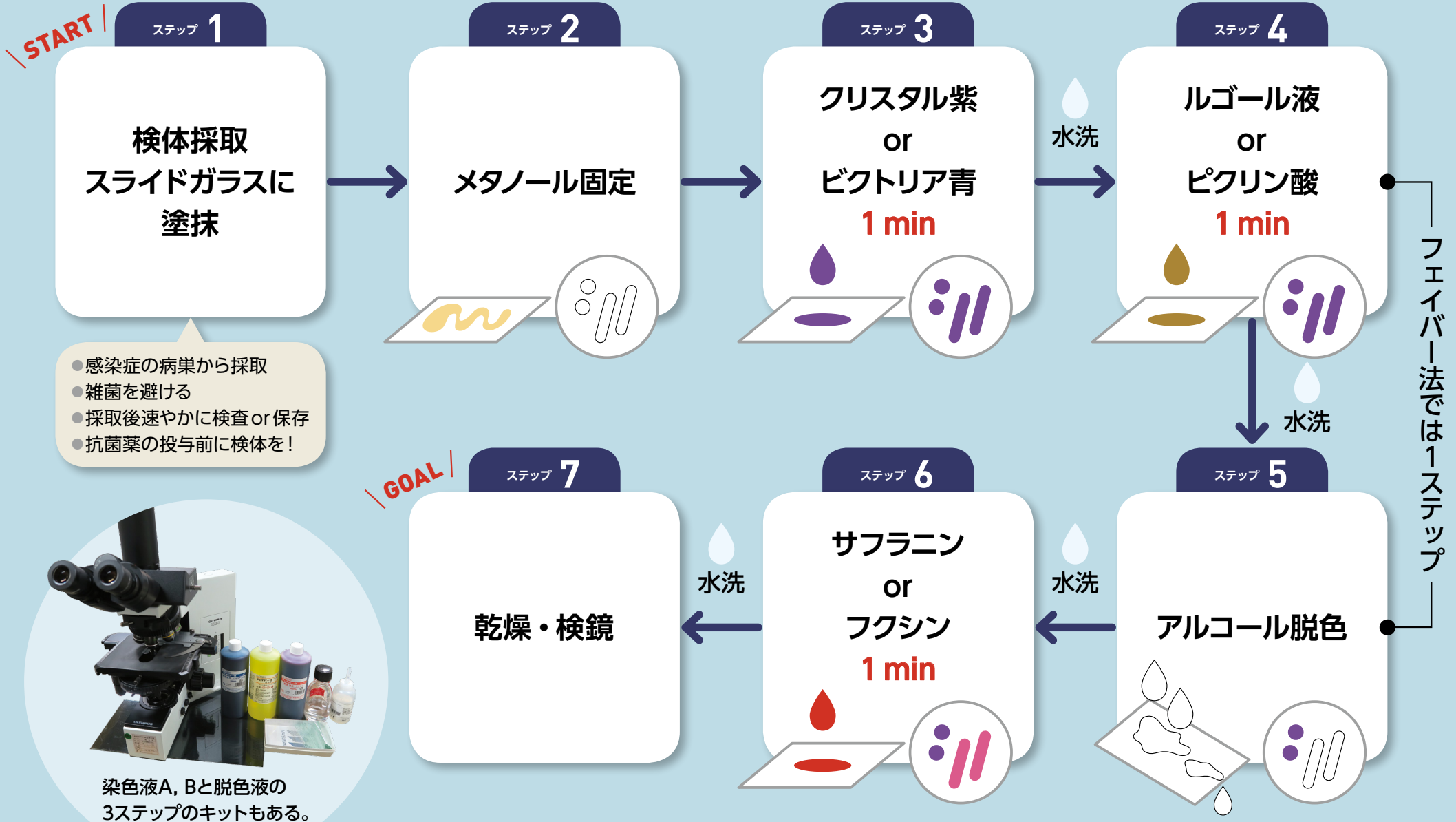
抗菌薬を使う前に

— 便利ツール —

- グラム染色法 1
- グラム染色で見られる細菌と治療薬(グラム陽性菌) ... 2
- グラム染色で見られる細菌と治療薬(グラム陰性菌) ... 3
- 抗菌薬を処方する前のCheck-list 4
- 院内感染を防ぐために 5
- 動物用抗菌薬一覧(犬・猫 **注射**) 6
- 動物用抗菌薬一覧(犬・猫 **経口**) 7
- 動物用抗菌薬一覧(犬・猫 **外用**) 8



グラム染色法



グラム染色で見られる細菌と治療薬(グラム陽性菌)

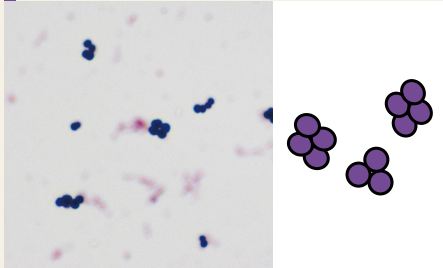
★：二次選択薬が含まれる系統

グラム陽性(紫)

球菌

ブドウ球菌

Staphylococcus intermedius group

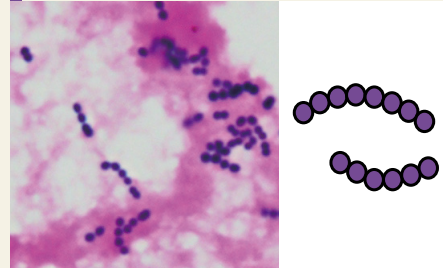


治療薬の例

- ペニシリン系薬
- アミノグリコシド系薬
- マクロライド系薬
- リンコマイシン系薬
- テトラサイクリン系薬
- ★セファロスポリン系薬 など

レンサ球菌

Streptococcus pyogenes

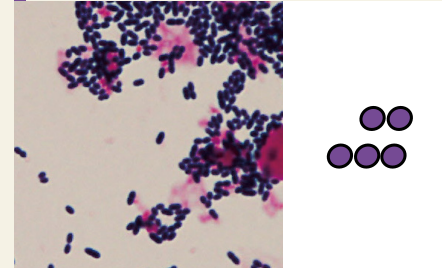


治療薬の例

- ペニシリン系薬
- マクロライド系薬
- リンコマイシン系薬
- ★セファロスポリン系薬
- ★フルオロキノロン系薬 など

腸球菌

Enterococcus faecalis



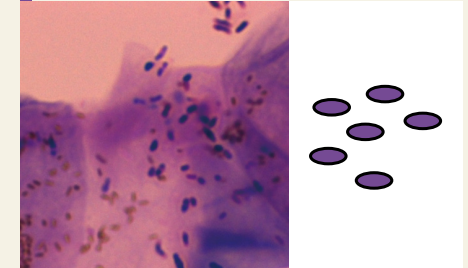
治療薬の例

- ペニシリン系薬
- マクロライド系薬
- テトラサイクリン系薬 など

桿菌

コリネバクテリウム属菌

Corynebacterium sp.



治療薬の例

- マクロライド系薬
- テトラサイクリン系薬
- ★フルオロキノロン系薬 など

真菌

マラセチア属菌

Malassezia sp.

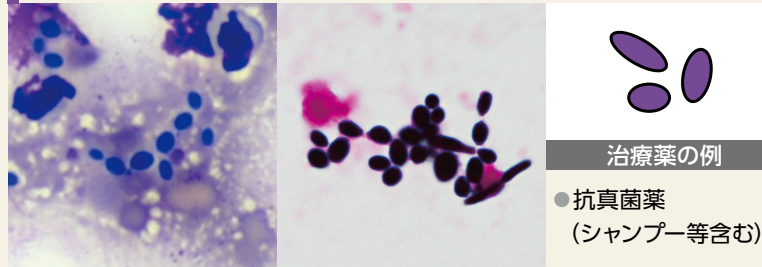


治療薬の例

- 抗真菌薬
(シャンプー等含む)

カンジダ属菌

Candida spp.

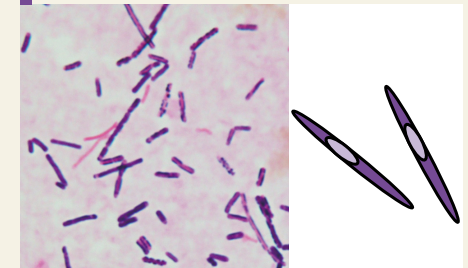


治療薬の例

- 抗真菌薬
(シャンプー等含む)

クロストリジウム属菌

Clostridium perfringens



※犬や猫では通常抗菌薬は使わない。

※上記以外の菌が見られることもあります。

※観察された菌が病原性を引き起こす原因となっているのか、抗菌薬治療が必要なのかを含めて考察が必要です。

グラム染色で見られる細菌と治療薬(グラム陰性菌)

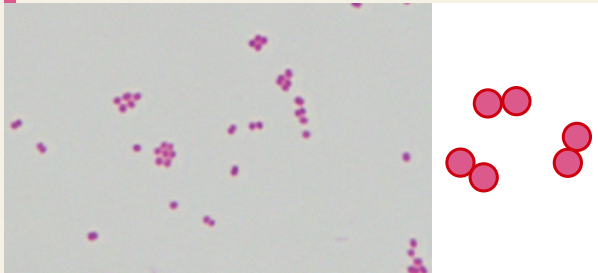
★：二次選択薬が含まれる系統

グラム陰性 (ピンク)

球菌

ナイセリア属菌

Neisseria sp.

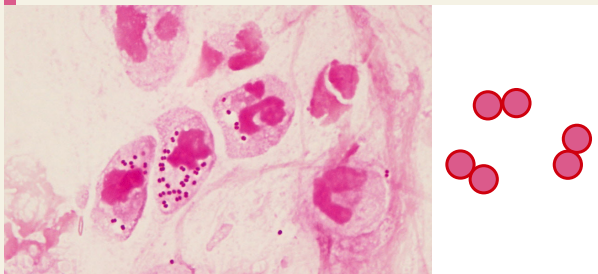


治療薬の例

- ペニシリン系薬
- アミノグリコシド系薬
- テトラサイクリン系薬 など

モラクセラ属菌

Moraxella sp.



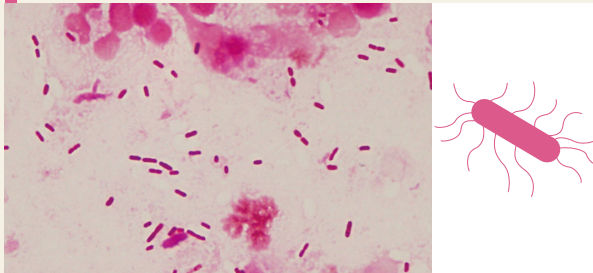
治療薬の例

- マクロライド系薬
- ペニシリン系薬 など

桿菌

大腸菌

Escherichia coli

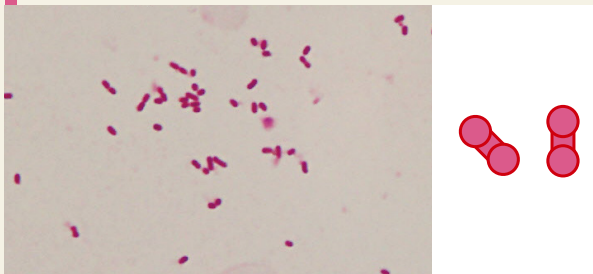


治療薬の例

- ペニシリン系薬
- テトラサイクリン系薬
- アミノグリコシド系薬 など

パストレラ属菌

Pasteurella multocida

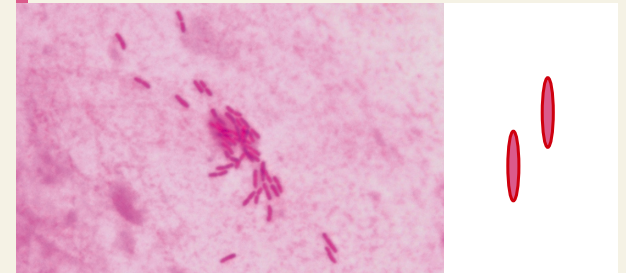


治療薬の例

- アミノグリコシド系薬
- ★セファロスポリン系薬
- ★フルオロキノロン系薬 など

シュードモナス属菌

Pseudomonas aeruginosa (緑膿菌)

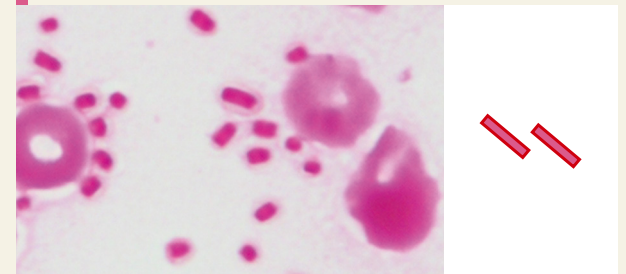


治療薬の例

- アミノグリコシド系薬
- ★フルオロキノロン系薬 など

クレブシエラ属菌

Klebsiella pneumoniae



治療薬の例

- ★セファロスポリン系薬 など

※上記以外の菌が見られることもあります。

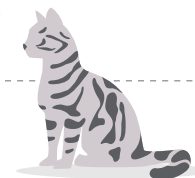
※観察された菌が病原性を引き起こす原因となっているのか、抗菌薬治療が必要なのかを含めて考察が必要です。

抗菌薬を処方する前のCheck-list

ステップ 1

☐ 細菌感染が疑われる

Check!



ステップ 2

☐ 検体を採取し、グラム染色を行う

➡ 検体は薬剤感受性検査用にも採取をし、検査をしましょう。

ステップ 3

☐ グラム染色の結果から適切な一次選択薬を選択する

➡ 動物用医薬品一覧や病院毎のアンチバイオグラムを参考にして下さい。

ステップ 4

☐ 抗菌薬投与後も症状の経過を観察し、適切な抗菌薬への見直しを行う

➡ 薬剤感受性検査の結果により、効果のある抗菌薬を選択して下さい。

➡ 再度検体を採取し、グラム染色を実施すれば抗菌薬の効果が確認できます。

抗菌薬の投与が不要な場合の例

- ☐ ウイルス性疾患の可能性が高く、二次感染がない場合
- ☐ 健康動物への予防的投与(歯石除去や歯磨き、交尾前や離乳時)
- ☐ 汚染のない外科手術の術後感染予防

Don't forget...

